



|              |   |
|--------------|---|
| Title        | 「SARAYA East Africaが始動するまで」   |
| Author(s)    | 代島, 裕世  |
| Citation     | 目で見るとWHO. 2013, 52, p. 20-23  |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/86722">https://doi.org/10.18910/86722</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



## 「SARAYA East Africa が始動するまで」

代 島 裕 世



Hirotsugu DAISHIMA

サラヤ(株) マーケティング本部本部長兼コンシューマー事業本部副本部長。早稲田大学第一文学部卒。進学塾講師、雑誌編集、ドキュメンタリー映画の制作、タクシー運転手などを経験した後、1995年サラヤ(株)入社。商品企画、広告宣伝、広報PR、マーケティングを担当。

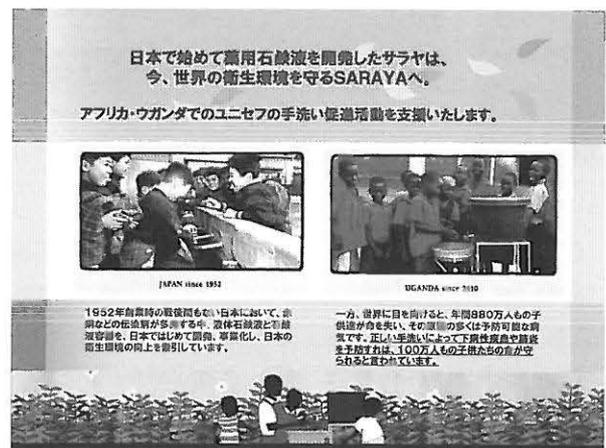


当社の新たな海外拠点の一つアフリカのウガンダにある現地法人が始めたソーシャルビジネスの事例を紹介します。

### ●手洗い普及活動の支援

当社は2010年から、ウガンダで母親と子供たちに、手洗いの大切さを教えるユニセフの活動を支援

しています。アフリカでは、赤痢やコレラ、肺炎などで多くの子供たちの命が奪われています。この感染症の大部分は、手洗いによって防ぐことができると言われています。



### ●感染防止のためのアルコールによる手指消毒

アフリカでも、病院や母子センターなどで院内

感染予防のためのアルコール手指衛生の普及が必要とされています。当社はウガンダに2011年 SARAYA East Africa (以下、現地法人と記す) を設立し、現地の方々が、安価に手洗いやアルコール手指消毒が実現できるよう、ビジネスとしての取り組みをはじめました。

当社は感染予防のための手洗いのパイオニアとして1952年に創業しました。戦後の荒廃した時期にあって衛生環境が悪く、赤痢や集団食中毒が多発していた日本で、手洗い用の石鹼液と専用ディスペンサーの製造を開始し、同時に手洗いの励行運動を展開しました。以来、工場や学校、食品製造・流通、医療施設・福祉施設、集客施設・宿泊施設、そして家庭などでの手洗い・手指衛生を通して、社会貢献に努めてまいりました。

2012年より当社は、WHOが主催する手指衛生推進の国際的活動“Private Organizations for Patient Safety”に参加しています。

当社は2012年に創業60年を迎えるにあたり、創

業の精神に立ち返り新たな船出を決意しました。そ

子どもたちの命を守る手洗いを、世界に広めたい。



現地法人

**SARAYA East Africa**  
いよいよ本格始動!

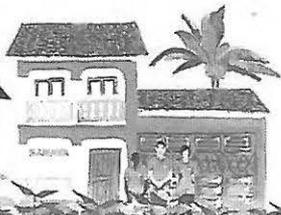


ウガンダ現地で独自にBOPビジネスを開始したSARAYA East Africa。まずは日本から運んだアルコール手指消毒剤を医療機関に実験導入し、院内感染予防にその効果が確認され始めています。その調査結果を基にアルコール手指消毒剤の普及を促進し、アルコール手指消毒剤が一日でも早く、現地製造、安定供給できることを目指します。そのチャレンジは今日も続いています。

プロジェクト全体で  
現地ブログ展開中!

現地視察ツアー、  
地産地消の行・公開中。

100万人の手洗い 続編  
tearai.jp



成果報告

120万人の母親への啓発活動。

2012年の前半までに4,000の啓発活動の母親120万人を対象にコミュニケーションプログラムを個別の「家」単位より、石けんによる手洗いについて伝える機会を作る活動が進んでいます。

40県の13,500村で、  
手洗いアンバサダーの活動が本格化。

2012年の前半までに40県の13,500村で6,715人の手洗いアンバサダーが養成されました。手洗いアンバサダーは、専門に手洗いキャンペーンを人々に伝える役割になっています。

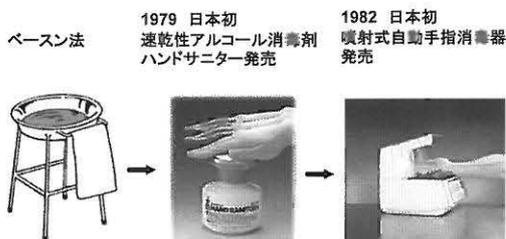
数十万基の簡易手洗い設備の設置を支援。  
手洗いの割合は、29%へ。

2012年の前半までに、対象国において、トイレの近くで使える機能する簡易手洗い場「Tap Tap」が数十万基設置され、対象国における手洗いの割合は2011年の24%から29%にまで向上しました。また、スタンド型手洗い、ついた手洗い、両ペーパー付手洗い、壁掛け型手洗いを、ケニア、ケニア、ケニア、バングラデシュ、アフリカ諸国での学校に設置しています。

世界手洗いの日のイベントなど、  
手洗い啓発キャンペーンの展開。(推定300万人の母親へ)

3年間を通して、合計27ヶ国が「世界手洗いの日」の啓発コミュニケーションを実施しました。5歳未満児の母親は20万人、10%が、マスマイクのキャンペーン活動を通じて、石けんによる手洗いのメリットに惹かれる機会を得ていると推定されています。また、2012年6月15日に開催された「世界手洗いの日」のイベントを支援し、合計2,282人の大人と7,187人の子どもが各県のイベントに参加しました。

## 手指衛生の歴史



3

のきっかけは2010年より取り組んでいたウガンダでのユニセフの手洗い普及活動の支援でした。

ウガンダでは20年も続いた内戦からようやく解放され、インフラの整備が急がれており、貧困地区ではコレラなどの感染症が蔓延するなど衛生環境が悪いのが現状です。日本では0.4%である5歳以下の子供の死亡率は12.6%です。適切な手洗いの励行は、幼い命を守るための重要な課題です。母と子供たちが「手洗い」という基本的衛生習慣を日常的に実行することで、コレラや赤痢、肺炎などを予防することができます。ユニセフは妊産婦・母親、学校の子供たちに手洗いを教え、手洗い設備の普及活動をしています。この支援について3ヶ年計画での実施を終え、さらに次の3ヶ年についての取り組みをはじめました。

ウガンダ政府も手洗い普及活動を積極的かつ精力的に進めています。地方自治体ごとに政府に指名され「手洗いアンバサダー」は今や3,500人に上り、彼らボランティア達は手洗いを村々に導入し、広げること大きなプライドを持って活動しています。



**Patient Safety**  
A World Alliance for Safer Health Care

**SAVE LIVES**  
Clean Your Hands



Prof. Didier Pittet  
Geneva University Hospital,  
Lead Director/  
WHO First Global Patient Safety Challenge



17

## ウガンダでの衛生事業

|  | 対象                              | ツール  | スタンス   | 備考  |
|--|---------------------------------|--|--|---|
|  | ※ 学校、地域<br>コミュニティを中心<br>としたBOP層 | 石けん(サビピー<br>タップ)による一瞬<br>手洗いの普及<br><br>衛生概念の啓発 | ウガンダで44キャン<br>ペーンを展開するユニセ<br>フへの寄付とその活動<br>のモニタリング   | 現在、4000人以上の<br>村々が活動を開始。  |
|  | 医療機関、特に公立<br>医療機関を利用する<br>BOP層  | アルコール手指消<br>毒剤による衛生手<br>洗いの普及                  | 事前の教育普及活動に<br>より、充分な認知した<br>上での現地施設へ販売<br>ビジネスモデルの導入 | 衛生インストラクターに<br>よる教育、啓発、モニタリ<br>ング、フィードバック・サイ<br>クルの導入<br><br>JICAの支援による活動 |

上記、2つのプロジェクト活動一タームで、当地の衛生環境改善をすめ、引いてはミレニアム開発目標にもあげられている、乳幼児死亡率の低減に貢献したい。

JICA 5S=Sort, Set, Shine, Standardize, Sustain

従来のベースン法での手指消毒はさほど効果はなく、同じ液を何人も使用することで、逆に感染が拡大することも危惧されます。

現在推奨されているのはアルコールを手にすりこむ消毒方法です。この方法は、通過菌に対して優れた効果があり、消毒の度に、常に新しい消毒液をとることになり、ベースン法のような消毒液の失活や汚染の心配はありません。

世界保健機関WHOは2005年に、第1回世界の患者安全への挑戦(Global Patient Safety Challenge)を開催し、“Clean Care is Safer Care”のプログラムを立ち上げました。このプログラムでは、病院や医療での感染予防のためにアルコールによる手指消毒を推奨しています。

ウガンダ共和国は、「世界の患者安全への挑戦」に署名している約130か国のひとつでもあり、医療機関や母子センターにも手指衛生普及の必要性が指摘されています。

JICA(独立行政法人国際協力機構)では、ウガンダでの病院の環境改善と衛生向上に整理・整頓・清掃・清潔・しつけの5S(Sort, Set, Shine, Standardize, Sustain)活動を推進しています。当社はJICAの5Sに連動して2012年からはじまったJICAが支援するゴンベとエンデベの2つの病院でのアルコールによる手指消毒の実証試験を行っています。そして、実際にアルコール手指消毒が病院でどのように受け入れられ、医師や看護師、病院職員にどれくらい浸透しているかの調査をしました。

この実証試験によって、特に生活用水にあまり恵まれない地域で、手指衛生の方法と当社が提供した商品が歓迎され、必要とされました。従来の手洗い

のための水の供給途絶えた時もアルコール消毒が有用であったことや、劇的に院内感染が少なくなったこと、特に乳幼児や妊産婦を院内感染から守ることができたことなどが証明されました。

当社はユニセフの手洗い普及活動を支援する中で、途上国の手指衛生を持続可能にする商品とサービスを提供するため、ウガンダでの起業を決意し、2011年5月に現地法人を設立しました。当社はWHOと協力して、手指衛生の必要性を訴え、ビジネスとして手指衛生を普及させます。

パイロットプロジェクトにより、アルコール手指消毒剤はウガンダ医療機関に受け入れられ、院内感染を劇的に減少させることがわかりましたが、低価格での提供が必要条件です。そこで、現地法人はウガンダの大手製糖会社のカキラシュガーと協定して、砂糖精製後の廃糖蜜からバイオエタノールを製造し供給してもらうことで合意しました。そして、2013年度中に工場の一 corner を借りて、アルコール手指消毒剤の製造を始めます。また同工場では、サトウキビの搾りかすを燃料に発電した電力を利用します。この生産ラインで「マザーグリーン」という全身ソープの充填も行い、高品質、高生分解性で持続可能な商品も合わせて販売する予定です。

アフリカにおける感染予防について協議し、各国が直面している衛生に関する課題や、近年ウガンダの病院がどのような問題解決に取り組んでいるのかを報告し、世界保健機関(WHO)が現在アフリカ諸国に行っている支援・アプローチの情報を共有することを目的とした「第1回東アフリカ感染予防会議」が、2013年2月21日ウガンダ・カンバラ市でウガンダ保健省と現地法人の共催、JICAウガンダ事

務所の後援で開催されました。

会議は、ウガンダ保健省事務次官であるルクワゴ博士のあいさつで幕をあげ、「世界の患者への挑戦」の主導者で“African Partnerships for Patient Safety”を強力に推進しているピッテ博士が基調講演を、JICAの石島氏、世界銀行のロゴ教授、ゴンベ病院のルレ院長などが講演され、ウガンダ国営日刊英字新聞に大きく報道されました。

さまざまな情勢が不安定でインフラの未整備な東アフリカでビジネスをはじめるとは、大きな挑戦です。しかしウガンダで成功すれば、タンザニアやケ

Stay Healthy and Smile!!

### 環ビクトリア湖経済圏

|       | 人口<br>面積<br>首都  | 民族<br>言語<br>宗教   | GDP (PPP)<br>1人あたりGDP (PPP)<br>法人税 |
|-------|---|--|------------------------------------|
| ウガンダ  | 3217万人<br>24.1万m <sup>2</sup><br>カンバラ<br>(標高1312m)    | バシンガ、ランゴ、ツバ<br>英語、スワヒリ、ルンディ<br>キリスト教80%<br>イスラム教17%    | 389億ドル<br>1,151ドル<br>30%           |
| ケニア   | 3980万人<br>59.3万m <sup>2</sup><br>ナイロビ(310万人)          | クワ、ルハ、ルソダン<br>スワヒリ(多数)、英語(公用語)<br>キリスト教82%<br>イスラム教18% | 604億ドル<br>1,713ドル<br>30%           |
| タンザニア | 4374万人<br>94.6万m <sup>2</sup><br>ドドマ(港都)<br>ドドマ(観光中心) | 77、72、74<br>スワヒリ(多数)、英語(公用語)<br>イスラム教40%<br>キリスト教40%   | 537億ドル<br>1,351ドル<br>30%           |

上記3か国にルワンダ、ブルンジを含めた5か国で東アフリカ共同体を形成。  
合計1,335億人、GDP745億ドルの共通市場への移行を進め、域内税関圏を構築。

ニアなどにも市場は拡大します。東アフリカには、1億5000万人、その半数が15歳以下、GDP(国民総生産)が1750億ドルという、大きなビジネスの可能性ががあります。

東アフリカでは道路や港湾などのインフラの整備のため、日本政府はODA(政府開発援助)の拠出をしようとしています。これに加えて、当社のビジネスが、雇用や経済成長の機会をもたらす、さらに東アフリカでミレニアム(MDGs)の達成へと歩調を合わせて進むことを信じています。

この成果としてMDGsのゴール4の乳児の死亡率を下げ、ゴール5の妊産婦の健康の向上、ゴール6の感染症との戦いは、我々が提案する手指衛生への取り組みによって、進展するものと期待しています。

この地域の平和は、成長と繁栄の機会をもたらします。そして、私達は、命に関わるこの3つのMDGsのゴールが、政府をはじめ国連機関、NPO、JICA、そして企業などすべてが共に機能し、協力して、達成されることを大いに期待します。

Stay Healthy and Smile!!

### 東アフリカ感染症会議2013開催

日程:  
2013年2月21日

場所:  
Speke Resort & Conference Center

参加人数:  
140名

発表者:  
Prof. Didier Pittet, WHO Lead Director, Patient Safety Challenge  
Dr. Ishikawa, Jica Adviser  
Dr. Lule Haruna, MD, MS, Gombe Hospital  
Prof. Rogo Khama, CEO of HIA, World Bank  
Panel Discussion



31



SARAYA

# 病院で手の消毒100% プロジェクト

東アフリカでの院内感染をなくすために。  
SARAYAは、アルコール手指消毒剤の普及を進めています。  
まず、ウガンダから。



衛生環境の問題が原因で失われる命を、この世界からなくしたい。衛生製品メーカーとして創業時から変わらない想いで、サラヤは、2010年から、アフリカ・ウガンダでのユニセフ手洗い促進活動への支援活動をはじめました。その活動を進める中、サラヤは、村での手洗いの普及活動だけでなく、劣悪な状態にある医療機関の衛生環境も改善したいと考えようになりました。病院内での病気の感染を防げば、乳幼児死亡率や妊産婦死亡率をもっと下げることができるのです。

2011年には、現地法人SARAYA EAST AFRICAを設立。

アルコール手指消毒剤を現地生産し、医療従事者に普及させていくことを目指す、ソーシャルビジネスをスタートしました。まず、ウガンダから、いずれは東アフリカ全域へ。現地の人々の雇用も生み出しながら、アフリカの社会課題を解決し、持続可能なビジネスとして広げていく。サラヤの挑戦はじまったばかりです。



**SARAYA** サラヤ株式会社

大阪市東住吉区澁里2-2-8

☎ 0120-40-3636 <http://www.saraya.com/>

**SARAYA East Africa**

Address: P.O. Box 23740, Kampala, Uganda Tel: +256-(0)312-72-72-92

Email: [info@saraya-eastofrica.com](mailto:info@saraya-eastofrica.com) Web Site (Eng): <http://worldwide.saraya.com/>